

# 深山の森の昆虫たち

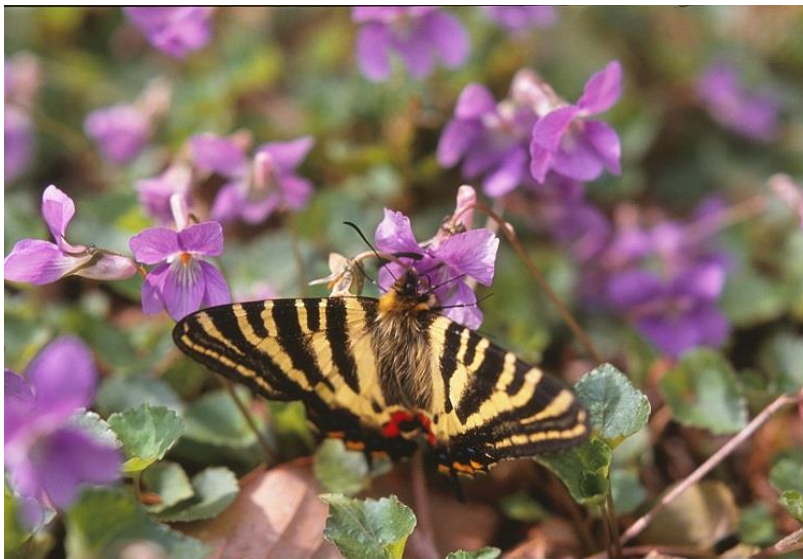
2017. 4. 17

多治見昆虫会 林 英昭

## 1. 春の女神ギフチョウ

桜の花が満開の頃、深山の森ではギフチョウが見られます。無風晴天の日に舞う姿は美しく春の女神と呼ばれています。やがて葉桜になる頃にはカンアオイの葉裏に卵を産み付けて短い一生を終えます。卵は薄緑の真珠色で美しいのですがゴールデンウィークの頃に真っ黒な毛虫が孵化し成長します。やがて6月頃にサナギになり約9か月間、来年の春までじっと羽化を待ちます。

\* ギフチョウ（日本固有種、岐阜県で初めて発見された為ギフチョウと命名された。）



春の女神 ギフチョウ



ギフチョウの幼虫

## 2. 小さなアイドル・ハッチョウトンボ

深山の森に隣接した大藪ため池の周辺にはじめじめした湿地があります。この湿地を好んで生息している昆虫が、日本で一番小さなトンボのハッチョウトンボで、はねを広げると2cmほど、ちょうど10円玉と同じ大きさです。5月～9月頃まで見られ、オスは赤い体でメスは黄色と黒のまだら模様をしています。湿地がないと生息できない貴重なトンボです。



ハッチョウトンボのオスとメス

## 3. 秋に発生するセミ

深山の森にはアカマツとコバノミツバツツジの自生地が広がり、こんな環境で8月下旬～10月にかけてチッチゼミが発生します。夏の終わり頃から発生することとチッチチッチと鳴くことから、秋の鳴く虫と勘違いしてあまり知られていないセミです。アブラゼミと比較すると小さいことがよくわかります。多治見市内では生息地が局地的で珍しいセミです。



アブラゼミ(左)とチッチゼミ(右)

#### 4. 緑色に輝くチョウ・ミドリシジミ

深山の森の沢の奥にハンノキという木が自生しています。このハンノキの葉を食べて育つチョウがミドリシジミで、翅を広げても3cmほどの小さなチョウですが、オスの翅は緑色の金属光沢に輝きとても美しいチョウです。岐阜県のレッドデータリストでは準絶滅危惧種に指定され、県内でも貴重なチョウにあたります。(見られる時期 6月中旬～7月初旬)

\* レッドデータリスト (生息地が少なく今後絶滅の恐れのある生物に関するリスト)



ミドリシジミ 上 オス・下 メス